



「特別な年」の新米先生へ

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子

方は全教育活動の見直しを迫られました。こんななか、教職につかれた新米先生は、驚くことばかりではないかと推察します。四月、晴れて教壇に立つはずでしたが、肝心の子ども姿は見られませんでした。採用が決まったときの喜び、教職への夢や抱負は、吹っ飛んでしまったのではないのでしょうか。

○始まった、異例づくめの学校生活

私は今春勤務校が変わりました。着任式は四月五日、新米先生を含め全校放送により行われました。子どもは私たち着任者をモニター越しに見たことになりましたが、私は子どもと会えないまま、また翌日から長い休みに入ってしまった。ふり返れば、たった一日の一方的な出会いです。

六月から再開となった学校生活は、異例づくめでした。三十分授業、午前組・午後組の編成、休み時間や掃除の時間の短縮、給食なしなど、すべて「三密」にならないための工夫でした。七月からは平常に戻りましたが、夏休みは大幅に減ってしまいました。

この期間、先生方にはふだんないような仕事がたくさん発生しました。主なものだけでも、

・全学級を午前・午後の二グループに分けたので、授業時間が増えまし



○経験したことのない事態が訪れた。
昨年度末、若い先生から聞かれました。

「TOSI先生は長く教職にあると思いますが、首相のお声がかかりで全国の学校が休校してしまうということ、これまでもありましたか」

「いや。ない。初めてだ。だからすごく驚いている。早くワクチンが開発されて治まってほしいものだね」

ほんとうに大変な事態が、全国規模で学校教育を取り巻いています。『三密をさけよう』と言われますが、ご承知のように、学校の教育活動は「三密」だらけです。教室の中はもちろん、体育館、校庭として例外ではありません。全児童が集まる集活や学校行事はできなくなりました。しかし休み時間など、子ども同士はべったりくっついて遊んでいます。そのため、先生

子どもと動き回れる。子どもと感覚がびったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のブログ」を執筆中。

た。
・校時表が小刻みになったので、休み時間、掃除の時間なども含め、めまぐるしく切り替わり、息つく暇もなくなりました。
・体育では、ソーシャルディスタンスを守るためのライン引きが増えました。
・子どもの下校後は消毒作業に追われました。
さらには、感染状況との兼ね合いで、予定はあってもその通りにいかない面が多々ありました。我が勤務校においても、休校日や再開日の日程が、変更になることがありました。
ベテランの先生方とともに、また、管理職の指示を仰ぎながらも、これらの仕事は新米先生に多くの精神的な負担を背負わせただけではないでしょうか。笑い話になりますが、七月に入り、やっと給食が始まると、子どもから言われました。
「うわあ。toshi先生の顔初めて見だよ。マスクを取ったら、意外と〇〇だね」
「それはお互い様だ。私もみんなの顔を初めて見たよ。みんなかわいいねえ」
これって、新米先生にも言えたでしょうね。マスクを取った顔は新鮮で、新たな出会いのように感じたかもしれません。



〇忘れてはいけないことは

最後に一番大事なことを述べたいと思います。それは児童への接し方についてです。

この異常事態は、子どもたちにも多くを負担させています。まず三月。年度末で本来ならお別れの行事や学級納めなど、進級、卒業の感慨にひたるときなのに、それらはすべてなくなりまして。一番思い出に残る大切な時期を奪われてしまいました。

その後も休みが続きました。家庭で所在なげに落ち着かない日々を過ごし

た子も多かったのではないのでしょうか。

学校再開後の午後登校のグループなど、ぼうっとした顔、あくびなどが相次ぎ、集中できない様子が見られました。私の授業中、担任が数人の子を廊下へ呼び出し、個別指導するなどということもありました。事情はわかりませんが、学級生活や放課後の生活の乱れを感じました。

でも、問題ばかりではありません。学校再開を喜び、授業を待ち望み張り切る子も少なからずいました。家庭での過ごし方が影響しているのではないかと感じました。

これからも異常な状態は続くでしょう。イライラしてキレたり、意味もなくウロウロしたりして、不可解な行動が見られるかもしれません。情緒不安定な子もいるかもしれません。新米先生は不安な思いになるときもあるでしょう。

しかしどうか、子どもに温かく接してください。受容の姿勢が大切です。問題行動には毅然と指導するにしても、そうせざるを得なかった心情には寄り添ってやることです。また、「みんな元気に登校しているね。えらい」などと言葉をかけてやりたいものです。

そして、子どもへの最大のプレゼントである「笑顔」を忘れないようにしましょう。